川端龍子《阿修羅の流れ（奥入瀬）》1964年、大田区立龍子記念館蔵
Ryushi Kawabata, *Ashura Stream in Oirase*, 1964

名作展

画家と生活

―川端龍子の晩年の作品から

2023年7月15日（土）～10月9日（月・祝）

Ryushi Memorial Museum
Ryushi Kawabata Exhibition　July 15 - October 9, 2023
"The Life of Ryushi in His Final Years as Seen Through His Works"

Kawabata Ryushi (1885-1966) is considered one of the great masters of modern Japanese-style painting. The Ryushi Memorial Museum was planned and designed by Ryushi himself and has a collection of more than 140 of his diverse works.

■開館時間　9：00～16：30（入館は16：00まで）

■入 館 料　一般200円、中学生以下100円
※65歳以上（要証明）、未就学児及び障がい者手帳等をお持ちの方とその介護者1名は無料

■休　　館　毎週月曜（7月17日（月・祝）、9月18日（月・祝）、10月9日（月・祝）は開館し、7月18日（火）、9月19日（火）に休館）

■ギャラリートーク（事前申込制）
開催日：7月30日（日）、8月27日（日）、9月24日（日）
各日11：30、13：00から40分程度
ギャラリートークの詳細は、当館ホームページをご覧ください。当館へお電話（03-3772-0680）にてお申込みいただけます。
※展覧会の会期、イベントの開催等については、新型コロナウィルス感染拡大の感染状況等により変更の可能性があります。予めご了承ください。

大田区立龍子記念館
〒143-0024 東京都大田区中央4-2-1
ハローダイヤル　050-5541-8600

【左上】川端龍子《孫悟空》1962 年、大田区立龍子記念館蔵
Ryushi Kawabata, *Sun Wuk'ung, Monkey with Divine*,1962
【右上】川端龍子《花鳥諷詠》1954 年、大田区立龍子記念館蔵
Ryushi Kawabata, *Composing Poems of Birds and Flowers*,1954
【左下】川端龍子《伊豆の覇王樹》1965年、大田区立龍子記念館蔵
Ryushi Kawabata,*Cacti in Izu*,1965

名作展

画家と生活
── 川端龍子の晩年の作品から

2023年7月15日(土)～10月9日(月・祝)

Ryushi Memorial Museum　Ryushi Kawabata Exhibition　July 15 - October 9, 2023
"The Life of Ryushi in His Final Years as Seen Through His Works"

今年開館 60 年を迎えた龍子記念館の向かいには、日本画家・川端龍子(かわばた りゅうし)(1885-1966) が晩年を過ごした画室と旧宅が残されています。画家は35歳の時にこの地に暮らし始め、それから80歳で亡くなるまでここで過ごしました。戦後に建て替えられ終の住処となった旧宅と、空襲の爆風に耐えた画室は、現在、龍子公園内に保存されています。大作を描くための 60 畳の広大な画室と、竹を特徴的に使用した旧宅、いずれもが建築好きな龍子自身の設計で、「建築はよく気持ちを理解してくれる棟梁との合作」と述べていた画家の生活への美意識が表されています。

戦後の龍子はホトトギスの同人となって、一日一句以上の句作を日課とし、俳句にも熱を入れていました。交流のあった俳人・高濱虚子を《花鳥諷詠》(1954年) に描いたのも、画家の生活と制作を考える上で重要です。また、戦後において、旅が龍子の制作の原動力となったという点に着目すると、喜寿の年にインドを旅してその印象を大画面に表現した《孫悟空》(1962 年)、十和田湖の奥入瀬渓流に取材した《阿修羅の流れ (奥入瀬)》(1964 年)、亡くなる前年には伊豆から眺めた富士を《伊豆の覇王樹》(1965 年) に表しているのも、画家の晩年を語る上では欠かすことができない作品となっています。そして、《十一面観音》を中心に 7 つの画面によって構成された連作「吾が持仏堂」(1958 年) では、龍子の旧宅に設けられた十一面観音菩薩を中心に 3 躯の仏像を納めた「持仏堂(じぶつどう)」と呼ばれる一室が描かれ、そこでの礼拝を一日の制作の始まりとしていた晩年の制作と生活そのものが作品化されているのです。このように本展では、画家と生活をテーマに、旧宅や画室に表されている生活への美意識とともに、龍子の晩年の作品群を紹介します。

関連イベント

夏休み子ども向けプログラム
「観て、描いて、再発見　親子で龍子を味わおう！」
日時：2023年8月6日（日）午前 (10:00～12:15) /午後 (14:00～16:15)
会場：大田区立龍子記念館に集合後、大田文化の森へ移動
講師：小林大悟氏（美術作家）　　定員：各回 12 名　　参加費：無料
対象：小学 3 年生以上（同伴者も参加可）

お申込み方法

※メールでのお申込みは当館ＨＰから
『往復はがき』または『ＦＡＸ』でお申し込みください。「夏休み子ども向けプログラム」と明記し、郵便番号、住所、氏名(ふりがな)、学年、電話・ＦＡＸ番号、希望人数をご記入のうえ、下記へお送りください。(7月24日(月) 必着)
※1通につき2名様まで可。参加者氏名に2名分のお名前を明記してください。返信用はがきには、代表の方の住所と氏名を、ＦＡＸでご応募は、返信用の番号を必ずご記入ください。

龍子公園のご案内

画室

隣接する龍子公園では、龍子設計の旧宅と画室を開館日に解説とともにご覧いただけます。

ご案内時刻　(1 日 3 回)
10：00、11：00、14：00 から開門します。(30 分程度)
Ryushi Garden Guided Tour　10:00, 11:00, 14:00～

■当館へのアクセス

● **ＪＲ京浜東北線 大森駅西口から東急バス４番**
「荏原町駅入口」行乗車「臼田坂下」下車、徒歩２分

● **都営地下鉄浅草線 西馬込駅南口から**
南馬込桜並木通り(桜のプロムナード) に沿って徒歩 15 分

Access

Ryushi Memorial Museum
4-2-1 Chuo,Ota-ku,Tokyo 143-0024
TEL:050-5541-8600

- From JR Keihin-Tohoku Line Omori Sta.West Exit, take Tokyu Bus No.4 towards Ebaramachi Sta.Entrance, get off at Usuda-Sakashita bus stop and walk 2min.
- 15-min.walk from Toei Asakusa Line Nishi-Magome Sta. South Exit

Information

Opening Hours	9:00-16:30 (entrance closes at 16:00)
Admission	Adults: 200yen, Minors: 100yen Children under 6 and seniors over 65 are free
Closing Days	Mondays (When a national holiday falls on a Monday, the Museum will be open and close on the following day)

次回展の予定

■「川端龍子プラスワン（仮称）」
2023 年 10 月 28 日（土）～翌 1 月 28 日（日）【予定】
2021 年に好評を博したコラボレーション企画展に引き続き、高橋龍太郎コレクションの協力のもと、龍子記念館の所蔵作品に現代アートの作品をプラスワン！川端龍子の作品を現代の美術作家の作品とともに展示し、龍子の大画面の作品と近代日本画を新たな視点から見つめ直す展示です。

大田区立龍子記念館
〒143-0024 東京都大田区中央 4-2-1
ハローダイヤル：050-5541-8600
記念館直通：03-3772-0680
https://www.ota-bunka.or.jp/facilities/ryushi/
えがく かなでる ひびく
公益財団法人 大田区文化振興協会